

『 三方よしを実行する子 』

藤枝市立藤枝中央小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事・授業	プログラム	職員研修
4月	<p>【第1ステージ】チャレンジステージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア出会いの会（遠足） ⇒ペア学年同士で ペアカード交換 ・一年生を迎える企画 ⇒1年生に向けた メッセージカードを掲示・放送 	①出会い	本校におけるピア・サポートの位置づけを提案（職員会議）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいタイム（4～6年生） ・ペア活動① 	授業を見合う会	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動② 	②聴き方	ピア・サポート第1回研修会の内容を伝える
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動③ 	・小さな道徳DAY	
8月	<p>【第2ステージ】レベルアップステージ（高める・深める）</p>		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動④ 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・ペア活動⑤ 	③自己表現	ピア・サポート活動の呼びかけ
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行（6年生） ・高学年集会（児童会） 	授業を見合う会	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内音楽会 ・高学年集会（児童会） ・自然教室（5年生） 		
1月	<p>【第3ステージ】 ありがとうステージ（振り返る・つなげる）</p>	④自分の気持ちへの対処・対応	ピア・サポート活動の呼びかけ
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生ありがとうの会 ・ペア活動⑥ 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうメッセージの 掲示・放送 		今年度の振り返り 来年度に向けて

1 本校のピア・サポート

本校の子供たちは、明るく元気で、友だちに対して思いやりをもって関わる姿が多く見られる。一方で、気の合う仲間同士での関わりに偏りやすく、普段あまり接点のない級友や他学年との交流が少なくなる傾向も課題として挙げられる。

そこで本校では、子供同士のつながりを大切にし、前年度から継続してピア・サポート活動を進めている。

特に、人間関係づくりの出発点は、互いに声を掛け合うことにあると考え、児童会を中心に「あいさつ」に力を入れている。

また本校では、「自分よし」「相手よし」「みんなよし」を大切にする「三方よしを実行する子」を学校重点目標として掲げている。この考えは子供たちの合言葉として学校生活に根付き、日々の判断や行動の基準となっている。中でも、温かな人間関係を築く上で「相手よし」な行動や「みんなよし」の行動はピア・サポートの考え方と重なるため、本校では特に大切にしている。

2 本年度の取り組み

(1) 授業において

本校の「三方よし」の考え方は、授業でも大切にされ、どの学級も「三方よしの授業」を目指して生活している。4月に学級活動の中で、「三方よしの授業を達成するための授業像」をクラスメイトで話し合うことで、どんな姿が三方よしの授業につながるのか共有し、それを掲示物として残すことで常に授業像を意識した授業を行うことができています。

今年度は、ピア・サポート活動年間プログラムの中に「授業の中でピア・サポート活動につながる活動」を入れることで職員も共通意識をもてるようにした。

また、子供が他学年の授業を見に行き、いいところを放送で伝え合う「授業を見合う会」を2回行った。他の学年の児童がどのように授業を行い、授業内でどのようなピア・サポートを行っているかを見るいい機会となった。

(2) 特徴的な活動（提言1、4、6）

児童会役員が中心となり、「あいさつすごろく」や「あいさつ名人の紹介」など様々な企画を行う中で、中央小の「あいさつ」の輪が広がっていくよう取り組んだ。チャレンジステージの振り返りとして行ったアンケートでは、「中央小はあいさつが自慢の学校になっていると感じるか？」という項目に対して、92%の児童が「とても感じる・感じる」と答えたことから児童会の主体的な活動が全校児童のあいさつの意識を高めたことが分かる。

また、11月と12月には、児童会役員が高学年の児童を集めて、高学年集会を行った。中央小がもっといい学校になるために高学年がどのように行動していけばいいのかを話し合った。異学年同士で本音で語り合うことで、仲間を思いやり、支え合う意識を高めることができた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度は、「あいさつ」で輪を広げる取り組みを通して、温かな人間関係をつくる礎とすることができた。また、「三方よしの授業」を目指す中で、友だちの良さや友だちの支えに気付き、自分も「相手よし」「みんなよし」につながる行動をしていこうとする気持ちを育むことができた。

来年度も、児童会役員を中心に「あいさつ」への取り組みを継続して行っていきながら「三方よしを実行する子」を目指していきたい。さらに、人間関係作りプログラムを計画的に活用することで、友だちを受け入れるだけでなく、違う考えの友だちとも話し合い、折り合いをつけて協力したり、自分の思いを理解してもらおうと努力したりする力をつけていきたい。